

## 令和2年度以降の行政評価局調査テーマ候補についての意見募集の結果

令和2年3月31日  
総務省行政評価局

「令和2年度以降の行政評価局調査テーマ候補」について、令和2年2月10日(月)から同年3月10日(火)までの間、国民の皆様から広く意見を募集したところ、電子政府の総合窓口(e-Gov)等により、6個人及び2団体から計9件の御意見を頂きました。御意見をお寄せいただきありがとうございました。

本件に関してお寄せいただいた御意見の概要及び御意見に対する行政評価局の考え方は別紙を御覧ください。

御意見の全文については、行政評価局企画課において閲覧に供します。

## 寄せられた御意見と当局の考え方

|   | 令和2年度実施テーマに関する御意見   | 当局の考え方  |
|---|---|---|
| 1 | ○ 子育て支援（産前・産後の支援）については、国の職員や児童相談所等の職員の専門性を確保すべきである。   | 貴重な御意見を頂きありがとうございます。「子育て支援（産前・産後の支援）」の調査設計等の参考とさせていただきます。   |
| 2 | ○ 不登校、ひきこもりの子供・若者支援等においては、義務教育を修了した後は、自宅での勉強による単位習得制度導入すべき  | 貴重な御意見を頂きありがとうございます。「不登校、ひきこもりの子供・若者支援」の調査設計等の参考とさせていただきます。 |
| 3 | ○ 「不登校、ひきこもりの子供・若者支援」について、調査内容としては、抜本的に見直しが必要と思われます。現行案の調査想定項目「不登校、ひきこもり支援に係る各府省・関係機関の取組状況等」については全く無駄とは言いませんが、いい結果を生み出している事例でないとあまり役には立たないと思われます。さもないと、「現状これだけやっていますが、不登校は増えるばかりです」とか「現状何もできていないので、増えるのは仕方ないです」のような言い訳レベルに終わって先に進めません。不登校やひきこもりだけでなく、荒れた若者の食生活を改善しただけで改善した事例はありますし、鬱の改善に農業体験が役に立ったという事例もあります。厚労省では2020年から農業体験を引きこもりの社会復帰に役立てようという動きもあるようです。よって、「食生活、農業体験や自然との触れ合いの有無、家族との関係性」などを調査項目に網羅してはいかがでしょうか。 | 貴重な御意見を頂きありがとうございます。「不登校、ひきこもりの子供・若者支援」の調査設計等の参考とさせていただきます。 |
| 4 | ○ 「自衛隊の災害派遣」についてのテーマの調査はぜひ実施してほしい。気候変動による豪雨や台風、地震などより大規模な災害が頻発する中、自衛隊の災害派遣の機会が飛躍的に増えているので、災害発生時の救援活動として実施される自衛隊派遣がより有効に機能する必要性を感じる。しかし、昨年10月の首都圏を直撃した台風19号の際に、断水が発生した神奈川県山  | 貴重な御意見を頂きありがとうございます。「自衛隊の災害派遣」の調査設計等の参考とさせていただきます。          |

|          |  |  |
|----------|--|--|
|          | <p>北町で、到着した自衛隊の給水車に県が「待った」をかけ、水が捨てられるという信じがたい事態が起きたことは記憶に新しい。県のマニュアルによれば、自衛隊の派遣要請は、どうしようもなくなった時の最終手段だが、山北町の状況は該当しないという理由から、自衛隊からの給水車3台が到着していたにもかかわらず県の許可が下りず、給水車3台の貴重な水は捨てられたというものだったが、災害時は国民の生命・安全を守るということを念頭においたケースバイケースの対応が求められる。そのための基準や対応分けを平時に整えておくことが必要だと思う。</p> <p>「自衛隊の災害派遣」の[想定調査項目]には、過去の災害時に機能しなかったマニュアルの洗い出し、ケースバイケースで対応できる基準・対応分けの見直しや、安全・生存を脅かす危険や脅威から「命や暮らし」を守るのはほかならぬ「国民＝私たち自身」であるにもかかわらず、多くの日本人にとっては「誰かが守ってくれるもの」という他人事の意識になっている現状があるので、国民に広く「私たちの命や暮らし」を守るためには何が必要か、を考える機会を学校・マスメディアを使った啓発・育成状況がどうなっているのかといった現状把握や国民の防災意識の醸成に効果的な取り組みの事例調査などを調査項目に入れてみてはどうかと思う。</p> | <p>きます。</p>  |
|          | <p>上記以外に調査実施を検討すべきテーマに関する御意見</p>   | <p>当局の考え方</p>  |
| <p>5</p> | <p>○ テーマ候補「プラスチック製品の使用削減に向けて」雪国における春という季節は、雪が解けてレジ袋やペットボトルなどが出現し、プラスチックごみがいかに多いのかを実感する季節でもある。</p> <p>海洋に漂うごみは増加の一途を辿っていて、海に住む生物が誤飲している。</p> <p>本来、人々が正しく廃棄あるいはリサイクルすればプラスチックごみが散乱することはないはずなのだが、そうでない人間がいるということ。であればプラスチック製品は製造も使用も減らしていくべき存在。リサイクルがうまく回れば資源有効利用になるのだが、中国を始めこれまでプラスチックごみを輸入していた国々が輸入を拒み始めている。国内自治体の対応もばらばら。</p>   | <p>貴重な御意見を頂きありがとうございます。今後の調査テーマ検討等の参考とさせていただきます。</p> |

|   |   |  |
|---|---|--|
|   | <p>仙台に住んでいたとき、仙台市のプラごみ専用袋があった。八戸に住んでいたときはプラごみ回収はなく、燃えるごみとして扱われていた。今住んでいる青森では週1回プラごみの回収はあるものの、専用ごみ袋ではない。環境を考えたとき、破綻してしまっているかもしれないリサイクルにごみを出すべきか、むしろ八戸のように燃やしてしまったほうがいいのか、判断にまよるところ。</p> <p>「プラスチック製品税」を新設し、使用頻度の逓減を図るべきではないか。</p>  |  |
| 6 | <p>○ 平成28年度に実施された「発達障害者支援に関する行政評価・監視」と同様に、「高次脳機能障害者支援に関する行政評価・監視」をテーマに据えていただき、高次脳機能障害者支援の実態を調査してほしい。</p>  |  |
| 7 | <p>○ 各省庁の承認や決裁等の方法と記録管理について調査していただきたい。各省庁での承認や決裁は文書及び電子決裁にて行い、公文書として記録管理されていると考えていました。しかし、法務省では口頭で決裁を行い、日時の記録が不明確な文書管理を行ってもよいようです。口頭で決裁するならばボイスレコーダー等録音録画による物を公文書として管理する等それなりの管理方法が必要と思いますが、画期的な手法を取られているのかもしれない。希望としては行政組織として統一していただきたいが、省庁ごとに承認や決裁方法が異なるならば一覧にしていきたい。総務省として承認や決裁方法を明文化していただきたい。</p> |  |
| 8 | <p>○ 現在、全世界に蔓延している新型コロナウイルスの正確な情報を知りたいです（発症するまでの潜伏期間、症状、不当な差別、いじめ、いやがらせ等を防ぐ方法）</p>  |  |
| 9 | <p>○ 高齢者の運転免許証の自主返納後の対策について、私の住む砺波地方は、散居村かつ公共交通機関は市営バス（自由乗降）のみ、しかも1日1本から2本のみの運行。自分自身もドライバーの一員として日々運転に支障をきたしているのではないかと不安ですが、やはり車のない生活（買い物、医者等）は考えられない。</p>   |  |

※ 基本的に頂いた御意見を掲載したのですが、変換ミスと考えられるもの等は当局で修正しています。

※ 頂いた御意見のうち、調査テーマ候補等について言及が明らかになされておらず、一般的な政策提言（国防軍の導入、監視社会への警鐘など）と認められるものは上記に掲載をしておりますが、若干数頂いております。